

				NPO法人 赤煉瓦倶楽部舞鶴 会 報			
				発行人/理事長 馬場 英 男			
				(連絡先) 〒625-0062			
				京都府舞鶴市森 875-2			
				TEL/090-3281-7539 FAX/0773-63-9764			
				E-mail brick@iris.eonet.ne.jp			
特定非営利活動法人 赤煉瓦倶楽部舞鶴							
会報 113号 令和3年1月1日							
「NPO法人赤煉瓦倶楽部舞鶴」ホームページ				http://www.redbrick.jp/			

**新年明けましておめでとうございます。新型コロナウイルスに打ち勝てるよう願っています。**

## 目 次

1 「舞鶴 煉瓦道ひとすじに」	内藤恒平	4 「生みの親、舞鶴へ感謝!!」	馬場信雄
2 「我々の活動はホフマン窯のようなもの」	仲原正治	5 その他 編集後記	事務局
3 「『輝く舞鶴』づくりの赤煉瓦倶楽部舞鶴」	石垣秀人		

## 今号の編集に当たって

これまでお知らせしていますが、当法人は今年度末にNPO法人を解散し、以前の任意団体「赤煉瓦倶楽部舞鶴」に戻ります。今号では、当倶楽部の発足・発展に多大なご指導ご支援いただいた方々に執筆を依頼しました。過分な温かいお言葉とエールに対し感謝するとともに、今後の活動の糧にしたいと考えています。

改めまして、会員の皆様には、引き続きご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。 (理事長 馬場英男)

### 1. 「舞鶴 煉瓦道ひとすじに」

前 赤煉瓦ネットワーク事務局長 内藤恒平 (会員 No.145)

#### 舞鶴 煉瓦道ひとすじに

赤煉瓦ネットワークの事務局活動を約25年間仲間と務めました。任意団体でしたので会員の皆さんと活動を行い、会計などをきちんと報告せねばなりません。好きなことを好きなようにやるということ。意外と気楽でした。

NPOは全く違い、細かいことも全て公開し会計報告などをきちんとせねばなりません。その気苦労たるや大変だったと思います。皆様お疲れさまでした。あえておめでとうございますと申し上げます。

#### 赤煉瓦饅頭 赤煉瓦浪漫 まちの名物煉瓦づくし

舞鶴のまちを歩いて一番印象に残ったのは、赤煉瓦建物ではなく、煉瓦が敷き詰められた「円隆寺の煉瓦石道」です。刻印の入っているものもあり、贅沢なものに見えました。

舞鶴の皆さんが赤煉瓦に取り組み始めて数か月、みんなで赤煉瓦建物の写真入りの名刺を作られていたことや、東舞鶴駅構内の掲示板には白糸中学校の生徒さんが描かれた観光ポスターが掲示されており、近畿百景第一位の「五老岳」などと並んで、なんと「歴史を見てきた赤レンガ倉庫」もありました。その広がりやの速さに驚いたこともあり。さらに、その後「赤煉瓦饅頭」、「ティーケーキ赤煉瓦浪漫」などのお菓子や赤煉瓦のラベルが入ったビール、清酒などの名物も出来ましたね。

#### 夏の夜のジャズ祭の 素敵な響きに魅せられて

何回も行った夏の夜のジャズ祭、暮れ行く舞鶴港の風を感じながら赤煉瓦に囲まれた空間で素敵な歌と演奏が聴ける素敵な時間でした。家ではなかなか話す機会のない、ジャズベースの勉強を始めていた息子と訪ねたのも良い思い出です。山下洋輔さん、谷啓さん、マリーンさんなど楽しい思い出ばかりです。

#### 赤煉瓦倶楽部舞鶴、

##### 自治体学会田村明まちづくり賞を受賞

2011年に自治体学会に「田村明まちづくり賞」が設置されました。これは赤煉瓦倶楽部舞鶴にふさわしい賞だと思ったので応募を勧めました。私の周囲のまちづくりに携わっている人達も「舞鶴は頑張っている。」とわがことのように話すのにはびっくりしました。結果、見事に第1回の受賞の栄誉を受けられました。素晴らしいことでした。

#### 清滋さんの夢を みんなの夢を ひろげよう

2015年赤煉瓦倶楽部舞鶴理事の森口清滋さんが急逝されました。赤煉瓦倶楽部の活動はもちろん、私の専門が造園で公園計画・管理であったこともあって、森口さんと赤煉瓦パークの整備のことも熱心に情報交換しました。森口さんが思い描いた夢と皆さんの夢を倶楽部の皆さんでさらにひろがることを祈っております。「森口さん、また行くでね。」



鉄条網の舞鶴海上自衛隊の倉庫もライトアップ



舞鶴市立白系中学校生徒作成の観光ポスター、東舞鶴駅に掲示

## 2. 「我々の活動はホフマン窯のようなもの」

赤煉瓦ネットワーク横浜通信員 仲原正治

「赤煉瓦―舞鶴・横浜物語」(2000年3月発刊)の冒頭で馬場英男は「人生には素晴らしい出会いがある・・・」と書いている。平成元年(1989年)3月に舞鶴人が横浜に来た時から物語は始まった。



1989.3.15 舞鶴まち研横浜来訪(中央/故田村明さん)

赤煉瓦ネットワークが発足し、田村明、村松貞次郎、北沢猛、清水慶一など、鬼籍に入った方々から大きな力を借りた。現在も藤森照信、日向進、堀勇良、西村幸夫、水野信太郎、藤原恵洋など、一流の方々に支援を受けている。出会いは出会いを呼び、田中フミ子は喜多方の煉瓦蔵を作った田中又一の娘だと知り、日南市油津では自分たちで煉瓦倉庫を買取り保存し市に寄付した。赤煉瓦番付も発行され、いくつかの建物は壊されてしまったが、北海道から九州まで、いろいろな場所で、赤煉瓦(近代建築)の保存活用も進んできた。そうしたことに微力だが貢献してきた。その中心が「舞鶴」であることは紛れもない。何しろ、世界唯一の「赤れんが博物館」を作り、舞鶴赤煉瓦倉庫群は国の重要文化財になり、赤煉瓦倶楽部・舞鶴は今でもしっかりと活動しているのだから。

我々の仲間は自分が好きなことをライフワークにし、継続させた。とても素敵で幸せな人生だ。赤煉瓦好き、

ジャズ好きの人間にとって、山下洋輔が「レッドブリック」を作曲し、演奏してくれるという至福の時を持つことができた。ただ、こころざし半ばで森口清滋が急逝したことはショックだった。赤煉瓦ネットワークへの彼の功績は計り知れない。

我々の活動は煉瓦が焼けると次に移り、永遠に焼き続けることができるホフマン窯のようなものだ。30年余の道のりでみんな同じように歳を重ねた。令和になった今、そろそろと思いながら、もうひと踏ん張りとも思う。舞鶴もNPOから任意団体になると聞いた。めんどくさい事務的なことから解放されて、以前と同じように楽しく美しく活動してくれることを望む。会合がなかなかできない昨今。横浜のメンバーもなかなか集まれないが、たまに私のギャラリーで懇談している。



2017.3.19 飯島会

みなさんにお会いする機会は少ないが、インターネットで各地の現状を見ることができるのは最高の贈り物。さて、まだまだ私の赤煉瓦の旅は続く。年末には弘前れんが倉庫美術館を見て、またフェイスブックに載せよう。

### 3. 「『輝く舞鶴』づくりの赤煉瓦倶楽部舞鶴」

N43 赤煉瓦塾 事務局長 石垣 秀人

《 現 赤煉瓦ネットワーク運営委員 》

江別と舞鶴のご縁は、1990（平成 2）年 11 月に開催された「第 1 回赤煉瓦シンポジウム in 舞鶴」に参加した時に始まります。翌年の赤煉瓦ネットワーク発足の起点となったものです。赤煉瓦ネットワークは、横浜と舞鶴の交流から始まったものですが、江別のネットワーク参加は、当時事務局を担当していた横浜市職員内藤さんからの 1 本の電話からでした。江別には煉瓦工場があり現在も生産していることで、赤煉瓦の魅力発信を北海道からもしないか、との声かけからでした。

声かけは江別市役所若手職員でつくる「江別まちづくりフォーラム」で、田村明著「都市ヨコハマをつくる（中公新書）」を教本に多角的にまちの魅力づくりなど学習会をやっていた時期でした。内藤さんは、田村さんと一緒に「横浜まち研」の活動をしていたこともあり赤煉瓦ネットワークへの参加となりました。

N43 赤煉瓦塾は、煉瓦博士の水野信太郎さんが 1999（平成 11）年の江別移住を契機に同年に発足したものです。煉瓦をキーワードに市民学習会を開いています。ネットワークの参加で各地の交流も大事な事業の一つとなりました。

舞鶴と江別を結びつけたのは赤煉瓦。赤煉瓦ネットワーク舞鶴大会はこれまで 3 回行われ、中心的に活動してきたのは赤煉瓦倶楽部舞鶴の皆さまでした。江別からも毎回参加し、活動のエネルギーと刺激を受けました。舞鶴大会は、まちの変貌と団体の転機などに合わせたもので、参加のたびにまちの変化に驚かされました。日ごろの調査研究と活動で市民を巻き込み行政を動かした証しが、現在の「輝く舞鶴」を創ったものと思います。赤煉瓦倉庫を活かした市政記念館、赤れんが博物館、神崎ホフマン窯の保全ほか赤煉瓦ジャズ祭、ライトアップなど市民が身近に赤煉瓦に親しむ環境づくりをした倶楽部の活動には頭が下がります。

2010（平成 22）年、北海道庁赤れんが庁舎で北海道大会の開催では舞鶴からも馬場さん、森口さんらが参加し、サッポロビール園での交流会では煉瓦のまちづくりに華を咲かせていた記憶が蘇ります。



2010.10.29-31 北海道大会

2015（平成 27）年 3 月、森口さんの訃報に接し驚きました。赤煉瓦倶楽部では発足時から馬場さんらと中心的に活動していた一人と聞いていましたので落胆も大きかったと思います。秋の舞鶴大会の成功は、悲しみを乗り越えての大会と思いました。次期大会への引継ぎは、舞鶴から半田へと馬場兄弟の兄から弟への横断幕の引き渡して、ネットワーク要の倶楽部の引継ぎとなってとても印象深いものでした。



2015.11.14-15 舞鶴大会（舞鶴→半田）

2020（令和 2）年を振り返ればマスク社会。新型コロナの収束、先行きが見通せません。リモートもいいけど、まちづくりは「3密」のなかで語り合い、そして接してこそいいものができると思います。

江別の煉瓦は、1891（明治 24）年に生産開始から今年 130 年を迎えます。

### 4. 「生みの親、舞鶴へ感謝!!」

一般社団法人赤煉瓦倶楽部半田 理事長 馬場信雄（会員 No.148）

《 現 赤煉瓦ネットワーク運営委員 》

赤煉瓦倶楽部舞鶴は NPO 法人から元の任意団体に戻れるとのこと、NPO 法人時代には数々の大きな業績を残されたことに最大限の拍手をお送りしたいと思います。赤煉瓦倶楽部半田にとって赤煉瓦倶楽部舞鶴は生みの親でもあり、また育ての親でもあります。改めて厚くお礼申し上げます。

私は舞鶴生まれで、赤煉瓦倶楽部舞鶴の理事長は兄です。学校を卒業後、愛知県半田市にある酢のミツカンに就職しました。その後、子会社の酒蔵に移り忙しい毎日を過ごしていたある時（1994 年）、突然兄から電話があり「半田に貴重な赤レンガ建物があるのを知っているか？ その建物が壊されようとしている。赤煉瓦ネットワー

クとして半田へ行くので会場の確保と、できる限り参加者を集めろ!」とのことでした。当時私は会社創立 150 周年事業の責任者で猫の手も借りたいくらい大忙しの毎日。勘弁してくれよ! が本音でしたが、兄からの要請でもあり不承不承時間を割いて市内を駆けずり回り段取りをしました。半田からの参加者は 15 名、赤煉瓦ネットワークからの参加は 14 名、計 29 名で会合がスタートしました。その中で活用事例紹介として兄から「赤れんが博物館が出来るまで」の報告がありました。正直、舞鶴の赤煉瓦と言えば小さい頃遊んだこともある場所で、草で覆われ、窓硝子が割れ、まるで廃墟のような建物という暗いイメージを持っていました。しかし、兄の報告を聞く中で今や舞鶴の街おこしのシンボルになっていることを知り、大変驚きました。

そして、その日から私は半田の赤レンガ建物に誰よりもどっぷりと関わることになったのです。



2006.8.5 舞鶴赤煉瓦建物の見学会

2006 年には当時の半田市長を先頭に大型バスで大挙して舞鶴へ視察に行きました。市政記念館で歓迎式典の後、二日間にわたり理事・森口清滋さんのガイドで市内の赤煉瓦を見学しました。舞鶴愛にあふれた森口さんの熱い語り、参加者は全員感動し、まちへの熱い想いを持つことがいかに大切であるかを学び、この見学会をきっかけに保存活動が一段と活発になって行ったと思います。2014 年の富岡大会で森口さんと再会した折り、2016 年の半田大会での再開を約束しました。しかし、残念ながら実現することは出来ませんでした。改めてご冥福をお祈りいたします。

その後、半田赤レンガ建物はお陰様で 2015 年にリニューアルオープンする事が出来ました。

振り返れば、舞鶴がなければ間違いなく今の半田はなかったと思います。半田赤レンガ建物にとってはまさに命の恩人です。改めてお礼申し上げます。今後も引き続きご指導の程よろしくお願いたします。



2015.7.18 半田赤レンガ建物オープニング講演会

## 5. その他

### 編集後記

(事務局)

皆さんお元気に新年を迎えられた事と信じています。さて昨年は新型コロナウイルスの感染拡大防止と経済活動保持の両立を目指す政府の対策が二転三転し、年末に第 3 波が到来し拡大に打つ手もなく越年となりました。

当倶楽部でも当初計画していた事業の中止を余儀なくされました。中止となったものは、市内・市外の赤煉瓦建造物の見学会、赤煉瓦ネットワーク千葉県市川大会、舞鶴湾に浮かぶ「蛇島ガソリン庫」の見学会、赤煉瓦ネットワーク主体の「広島旧陸軍被服支廠」見学会などでした。

その中でも、貴重な発見もありました。30 年前に開催した「第一回赤煉瓦シンポジウム in 舞鶴」のシンポジウムと交流会を撮影した VHS テープが見つかった事です。既に再生機を処分していたため中古品を購入、6 時間にわたる記録映像を隈なく見届けました。山内実行委員長の挨拶、町井正登当時市長の来賓挨拶、西村幸夫氏(当時東大助教授)の基調講演、シンポジウムでのコーディネーター日向進氏(当時京都工芸繊維大学助教授)・パネラー(水野信太郎氏、上田祐子氏、仲原正治氏、馬場英男)、質疑応答など克明に記録されていました。その後の旅館「白糸」での赤煉瓦交流会での参加者の紹介も撮られており、皆さんの若々しい姿を拝見出来ました。今後可能な限り、DVD に変換して皆さんにご案内したいと考えていますのでご期待ください。(h.b)

(以下の有効期限は、令和 3 年 3 月末です)

**会 員 資 格：** 会費納入者(特別会員は除く)。入会金 1,000 円、年会費(個人 2,000 円、法人 10,000 円)。

なお、会員申込用紙は、ホームページからダウンロードできます。ご寄附も受け付けています。

**会費・寄付金等 振込先：** ゆうちょ銀行 口座番号 01010-6-21476 加入者名：赤煉瓦倶楽部舞鶴

